

## 滋賀のめざす特別支援教育のあり方懇話会第2回会議 次第

日時：平成26年(2014年)9月16日(火)

午前10時から12時まで

場所：大津合同庁舎7-A会議室

### 開 会

- 1 追加データの説明
- 2 本県特別支援教育の現状課題の整理
- 3 今後の考え方と方向性について
- 4 その他
  - ・ 次回の予定
  - ・ 今後の日程

### 閉 会

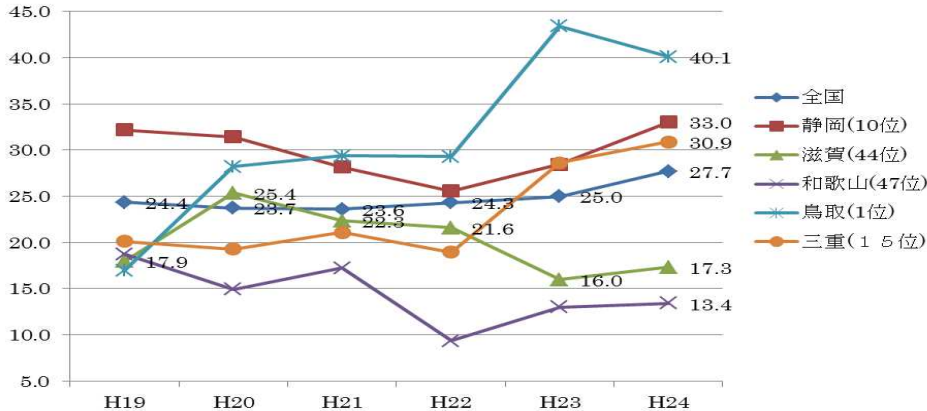
- |              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| ・ 委員名簿       |                             |
| ・ 座席表        |                             |
| ・ <u>資料1</u> | データから見る本県の特別支援教育について（追加データ） |
| ・ <u>資料2</u> | 課題整理表                       |

## 滋賀のめざす特別支援教育のあり方懇話会委員

氏 名	団 体 名	役 職 名 等
朝 野 浩	立命館大学	教授
居 川 安 子	滋賀県PTA連絡協議会	理事
植 松 潤 治	滋賀県障害児者と父母の会連合会	代表
亀 田 壽	滋賀経済産業協会	総務部長
北 岡 賢 剛	社会福祉法人グロー	理事長
木 船 憲 幸	大谷大学	教授
口 分 田 政 夫	びわこ学園医療福祉センター草津	施設長
近 藤 誠	滋賀県小学校長会	会長 (大津市立青山小学校長)
崎 山 美 智 子	滋賀県手をつなぐ育成会	理事長
重 森 恵 津 子	滋賀県特別支援学校長会	代表 (県立野洲養護学校長)
鈴 野 崇	滋賀県健康医療福祉部	障害福祉課長
高 橋 圭 治	滋賀県特別支援学級設置校校長会	会長 (大津市立仰木の里小学校長)
野 瀬 隆 之	滋賀県公立高等学校PTA連合会	会長
日 岡 昇	滋賀県中学校長会	会長 (近江八幡市立八幡中学校長)
藤 野 智 誠	滋賀県町村教育長会	副会長 (愛荘町教育長)
矢 野 浩 一	滋賀県商工観光労働部	労働雇用政策課長
山 本 太 一	滋賀県都市教育長会	会長 (米原市教育長)
吉 川 由 美 子	滋賀県特別支援学校PTA連絡協議会	会長
吉 澤 加 寿 子	滋賀県高等学校長協会	代表 (県立石部高等学校長)
渡 部 雅 之	滋賀大学	教授

# データから見る本県の特別支援教育について (追加データ)

特別支援学校高等部卒業生の就職率 全国との比較 (H19-H25)

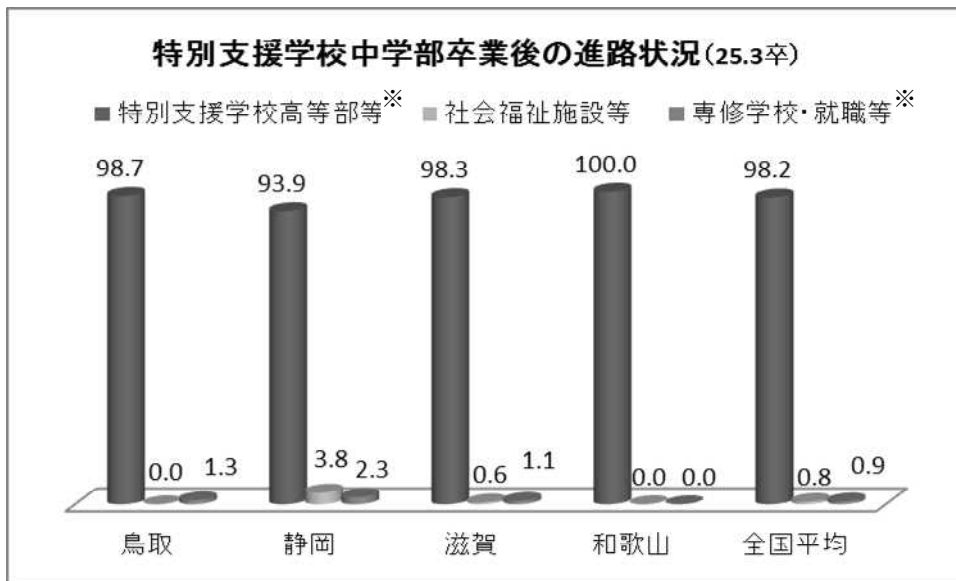


(第1回懇話会資料より)

- 1 特別支援学校中学部卒業生の進路状況についての全国比較 …… 1
- 2 中学校特別支援学級卒業生の進路状況についての全国比較 …… 1
- 3 特別支援学校高等部において、全学級に占める重複障害学級の割合 … 2
- 4 特別支援学校高等部在籍生徒の通学状況の割合 …… 2
- 5 滋賀県立特別支援学校における、知的障害を主たる障害とする生徒の状況 …… 3
- 6 法定雇用率を達成している民間企業の割合についての全国比較 …… 4
- 7 滋賀県立特別支援学校高等部卒業生の就職先職種割合の全国比較 …… 4

データ 1

特別支援学校中学部卒業生の進路状況についての全国比較 (H25.3月卒業)



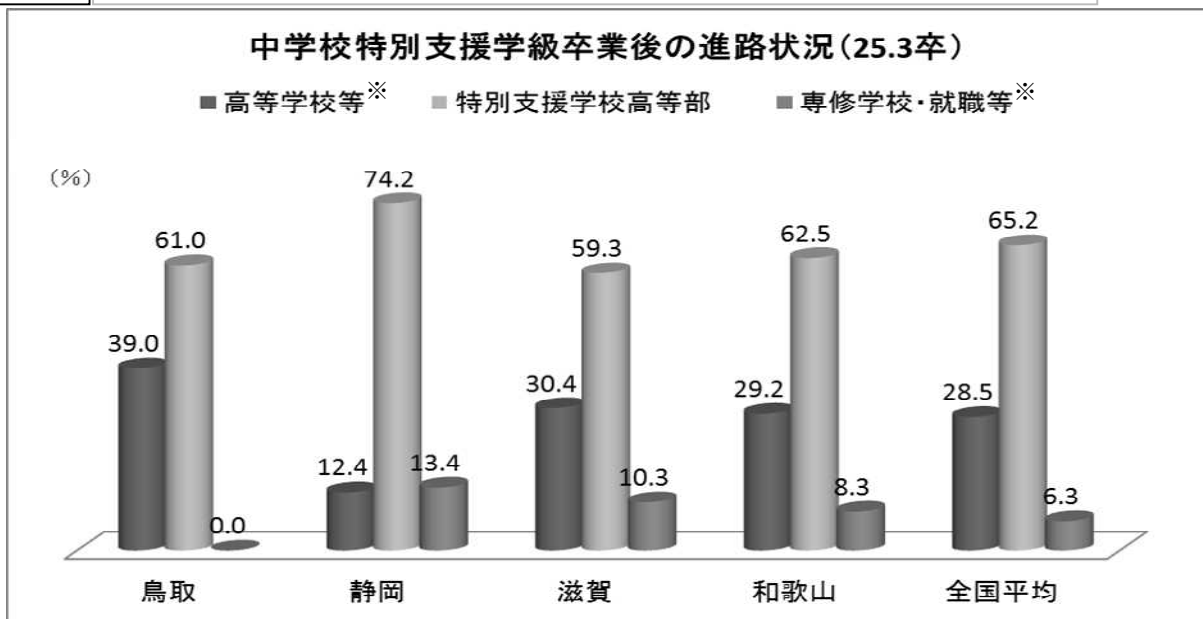
特別支援学校中学部卒業後の進路状況としては、ほとんどが特別支援学校高等部等<sup>※</sup>への進学である。数値の中には高等学校等も含まれるが、このうち、全国平均では97.6%、滋賀県では96.5%が特別支援学校高等部への進学となっている。

※「特別支援学校高等部等」…特別支援学校高等部、高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校

※「専修学校・就職等」…専修学校、就職者、公共職業能力開発施設等、その他

データ 2

中学校特別支援学級卒業生の進路状況についての全国比較 (H25.3月卒業)



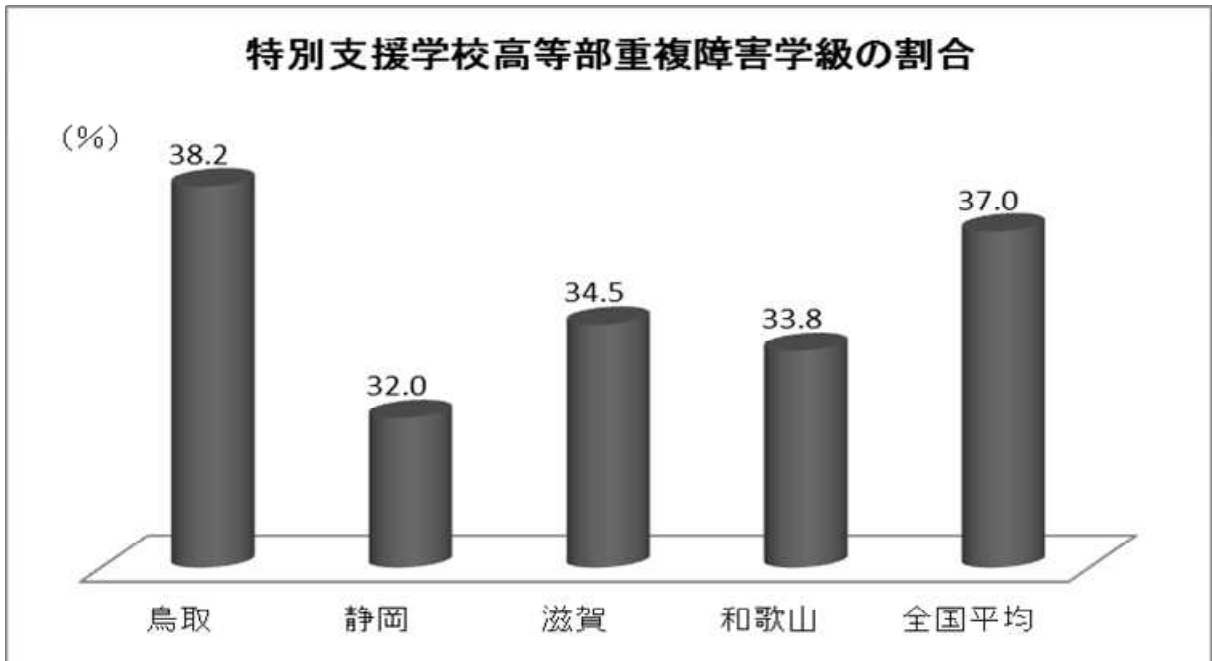
中学校特別支援学級卒業後の進路状況としては、特別支援学校高等部への進学率において、県によって違いはあるが、極端な差は見られない。

※「高等学校等」…高等学校および中等教育学校後期課程、高等専門学校

※「専修学校・就職等」…専修学校、就職者、公共職業能力開発施設等、その他

データ 3

特別支援学校高等部において、全学級に占める重複障害学級の割合（H24. 5. 1 現在）

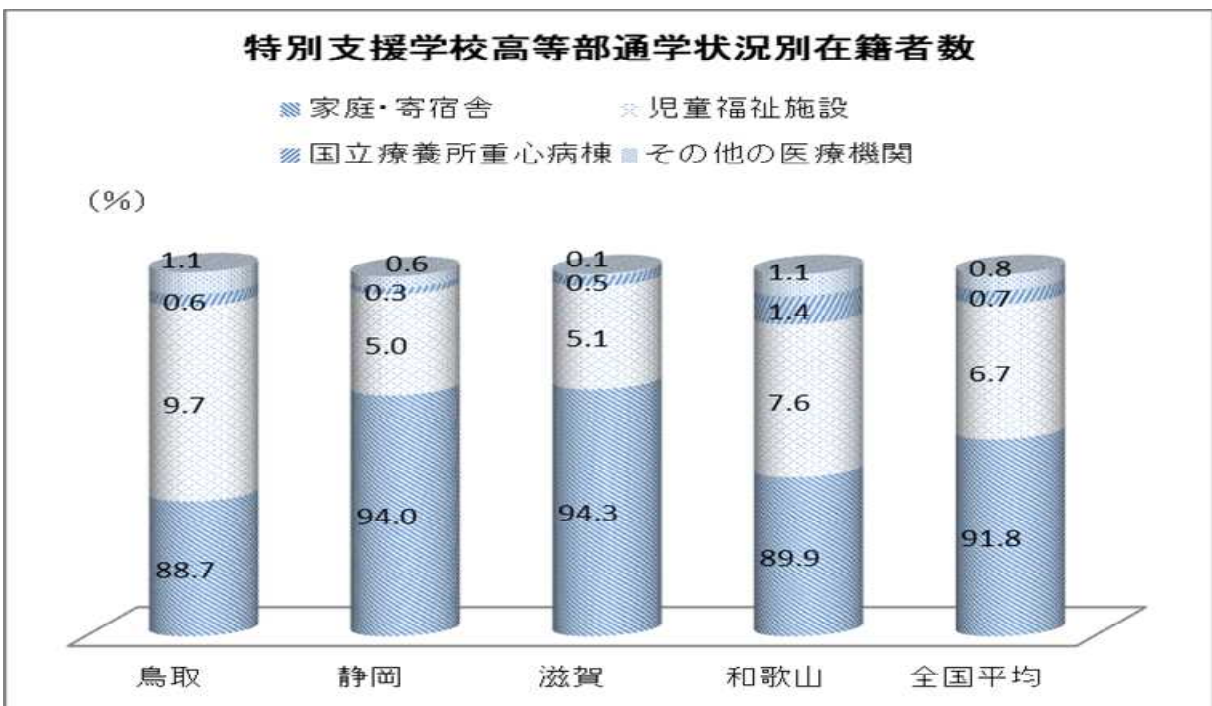


特別支援学校高等部の全学級に占める重複学級の割合は、在籍する障害の状況（軽重等）に関わると推定されるが、その数値と就職率との関連はみられない。

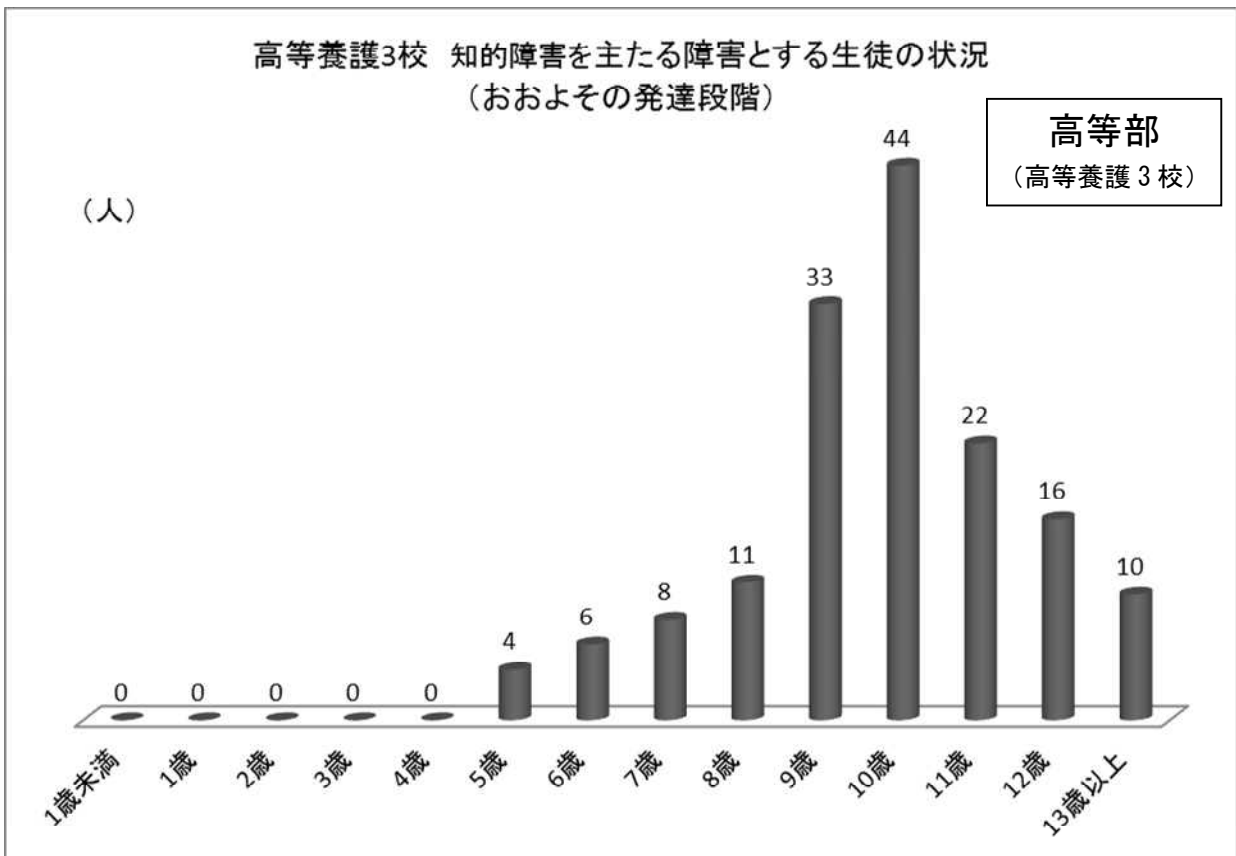
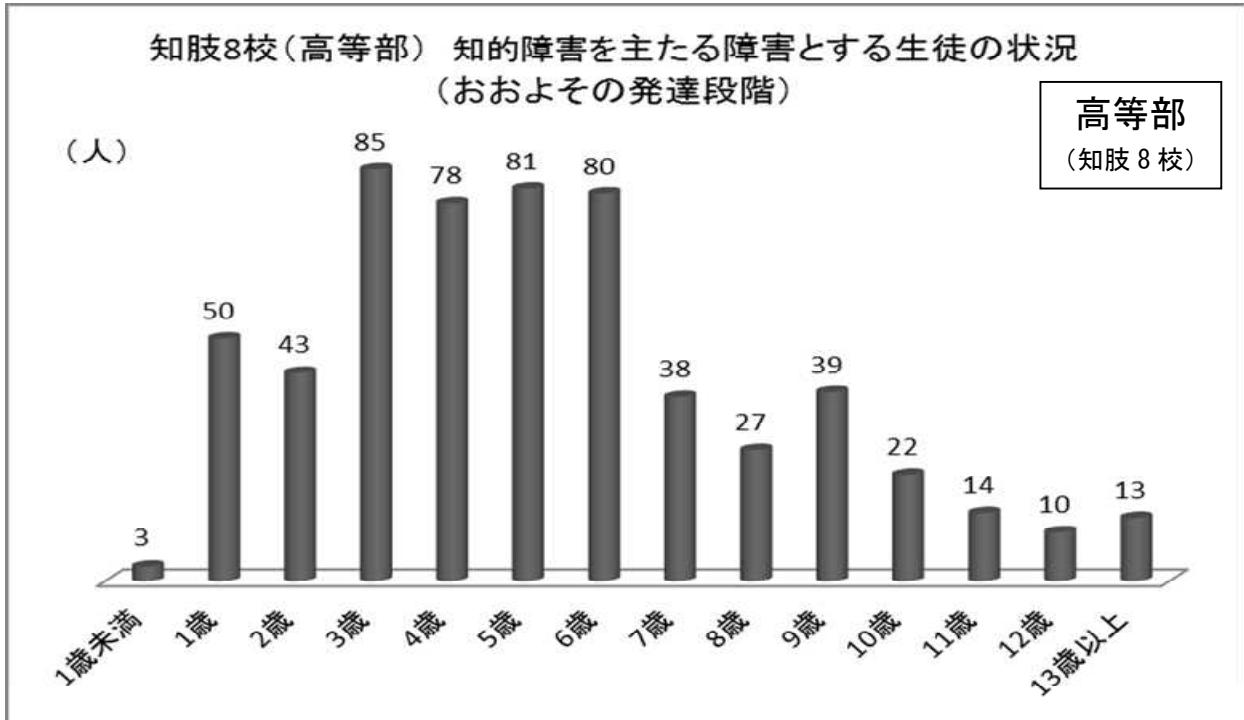
※重複学級…学校教育法施行令第 22 条の 3 に掲げる障害（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱）を 2 以上併せ有する児童生徒で特別に編制されている学級

データ 4

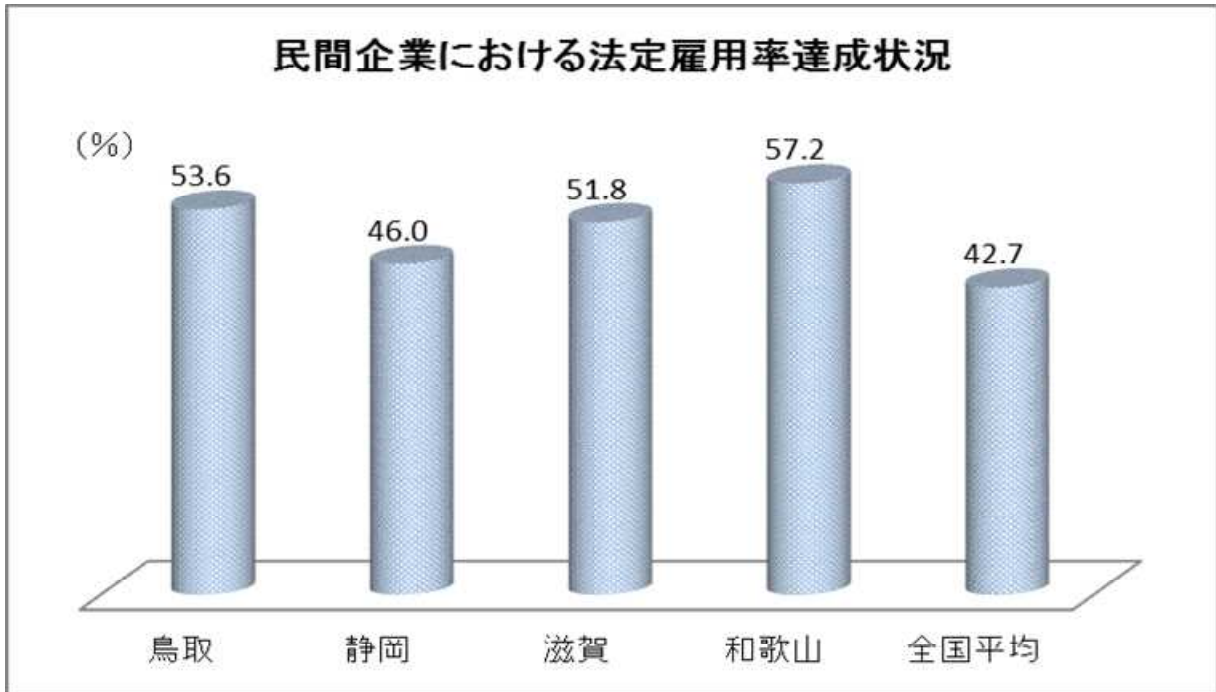
特別支援学校高等部在籍生徒の通学状況の割合（H24. 5. 1 現在）



データ 4 は、特別支援学校高等部在籍者の通学状況を表したものである。「国立療養所重心病棟」や「その他の医療機関」在籍者の割合は、在籍者の障害の程度に関わってくると推定されるが、就職率との関連は見られない。

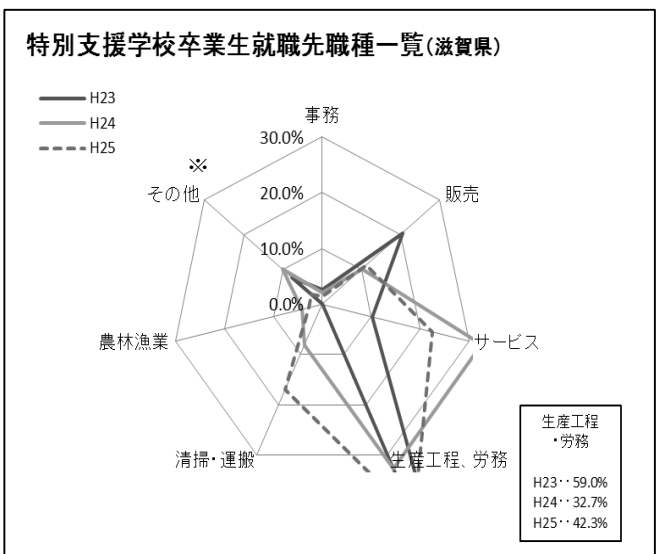
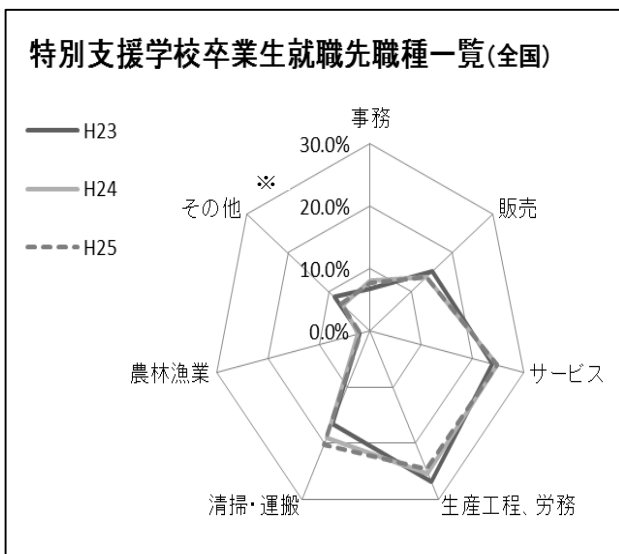


特に高等部において知的障害の程度が比較的軽い生徒が多く在籍しており、目標とする就職率の目安として考えられる。



データ 6 は、定められた障害者雇用率を達成している民間企業の割合を示しており、障害者就労の受皿の充実度に関わってくると思われるが、就職率との関連はみられない。

※「法定雇用率」について…「障害者の雇用の促進等に関する法律」では、事業主に対して、その雇用する労働者に占める身体障害者・知的障害者の割合が一定率（法定雇用率）以上 になるよう義務づけている。（民間企業2.0%）



データ 7 は、平成 23 年度から 25 年度までの卒業生の就職先を職種で示しているが、滋賀県では、生産工程・労務関係への就職が特に多い。

※「その他」…専門・技術的、保安、輸送・機械運転、建設・採掘、その他



「滋賀のめざす特別支援教育のあり方」課題と今後の方向性の整理表

現状と課題	検討項目	委員の意見	キーワード	基本的な考え方
<p>(1) 特別支援学校の児童生徒数増加 ○特別支援学校の児童生徒数は全国と同様、平成7年度以降増加に転じたが、直近10年間の伸びは全国1位である。 ○本県の特別支援学校における児童生徒増加の特徴としては、特に、中学部3年生と高等部1年生の増加が著しく、約半数は地域の中学校からの進学者となっており、こうしたことも全国の増加率を超える就学状況の背景にあるものと思われる。</p> <p>(2) 就学指導 ○本県の特別支援学校、特別支援学級の在籍者の状況を見ると、市町によって就学状況が大きく異なっている。これは、特別支援教育にかかる就学基準（学校教育法施行令第22条の3）に定める障害の程度の解釈や保護者の意見の反映などが市町によって異なっているためと思われる。</p> <p>(3) 特別支援学校高等部卒業後の進路 ○特別支援学校高等部の進路状況は、本県の就職率は低下傾向にある。</p> <p>(4) 通常学級における特別支援教育 ○通常学級に在籍する、発達障害等により教育上特別な配慮を要する児童生徒が年々増加している。</p>	<p>育の 取 組 み の 促 進 に 関 す る こ と</p> <p>1. インクルーシブ教育の実現をめざした、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援が必要な人たちを、周りが支えるような世の中を作っていかなければ。</li> <li>教員の課題。普通の小中学校に勤務する先生方の認識レベルの問題、対応する能力の問題がインクルーシブ教育を考えるにあたって非常に大きな問題。</li> <li>子どもはいずれ地域に帰っていく、そのために、地域の小学校（特別支援学級）に就学して、生きる力、ソーシャルスキルや友達といかに生活していくかを学んでほしい、この子を納税者にしたい、そのための学校選択をしたいという親の思いがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りが支える</li> <li>教員の課題</li> <li>小中学校の先生の認識の深化</li> <li>免許取得率の向上</li> <li>障害者基本法の理念理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中高校教員の指導力と専門性の向上</li> <li>発達障害等児童生徒への指導の充実</li> <li>特別支援教育への理解啓発促進</li> <li>障害のある子どもたちが地域の学校で学ぶための環境整備</li> </ul>
	<p>2. 適正な就学の推進に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校での3年間を選ばずに、特別支援学校中学部から高等部までの6年間というスパンで力をつけさせたいという親の思いがある。</li> <li>地域、本人、保護者が何を望んでいるか。特別支援学級、特別支援学校それぞれのメリットがあるが、本来はどこに就学しても、その子にとって一番いいものが身につけられるべきだが、そうでない現実もある。現状では、特別支援学校に行った方がいいものが身につけられると認識されている方が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で生きていく</li> <li>進路を見据えた学校選択</li> <li>特別支援学校、特別支援学級のメリット</li> <li>本人・保護者の願い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人、保護者の意向を尊重した就学先決定のための環境整備の充実</li> </ul>
	<p>3. 新しい学校づくりとキャリア教育の充実に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職率は、地域の受皿の整備状況、在籍生徒の障害の状況によって変わってくるが、これだけの差が出てくることの課題は大きい。</li> <li>仕事に就くために、何を身につけておかなければならないかということを少しずつ学ばせていけるようなシステムが高等学校、特別支援学校ともに必要。</li> <li>適応力やソーシャルスキルの力をいかに身につけていくかということ、個別の指導計画、個別の教育支援計画にあげて、積み上げていくことが、就労に繋がっていく。</li> <li>生徒の就労に向けて教育に関わる部分、教育の有り様というのを、明らかにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソーシャルスキル</li> <li>地域の受皿</li> <li>定着と離職</li> <li>周囲の理解</li> <li>キャリア教育の推進</li> <li>個別の指導計画、個別の教育支援計画</li> <li>就労への意欲（就職希望）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた指導の充実</li> <li>高等学校における発達障害等生徒の指導の充実</li> </ul>
	<p>4. 望ましい通学支援のあり方に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> <li></li> <li></li> <li></li> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> <li></li> <li></li> <li></li> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> <li></li> <li></li> <li></li> <li></li> </ul>
	<p>5. 在籍増への対応に関する事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>滋賀県の障害児教育は、糸賀氏の思いもありすごく丁寧に見てきており、障害児教育への親の気持ちも育ってきている。</li> <li>在籍増の原因は何かということを明らかにしていく。</li> <li>増加要因として、特に知的障害などは理解が進んだので、見出しやすくなったというのが大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育への期待</li> <li>障害への理解</li> <li>要因の明確化</li> <li>都市化、人口増</li> <li>福祉と教育（の違い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>増加要因の分析と対策</li> <li>施設整備</li> </ul>